

第 1 回瑞浪市生活交通ネットワーク計画検討分科会の概要

1. 案の概要

- A案：コミュニティバス（全域）＋タクシー補助券
- B案：デマンド交通（市全域）＋スクールバス（通学）
- C案：デマンド交通（北部）＋コミュニティバス（中南部）＋スクールバス（通学）
- D案：コミュニティバス（一部路線短縮）＋デマンド（端末）

2. 主な意見

- ・既存の公共交通ネットワーク（鉄道、路線バス、コミバス）を活かすことが必要。
- ・バス停までのデマンドのように、乗継が前提となる方法はない。
- ・本計画を連携計画の前期（平成 30 年度まで）とするなら、北部の中学校統合は平成 31 年度からなので、統合後のことを見据えながらも、中学校の統合前の状況（現状通り）で考えて良いのではないか。
- ・通学対応については、南部はスクールバスで決定。北部をスクールバスで対応しようとすると、多くのバスが必要になるので、コミバス対応も含めて、案を検討する必要がある。
- ・日吉は中型のバスが奥地まで入っていけないので、スクールバスにしてもバス停まで徒歩になる。
- ・稲津と陶は現状で良いのではないか。
- ・南部は路線バスがあるので、北部と南部を分けて考えても良いのではないか。
- ・B案は南部路線バスの集客吸収となる。また、稲津、陶内でも利用客がいるため、導入は厳しい。
- ・大湫では昼間の便がほしい。土日の運行もほしいが、今の状況でやむをえなく定着している。
- ・タクシー券でどこまで利用できるのか。D案はバス停までとなっているが、バス停がどこになるのか。年寄りが予約をいれて、乗り継ぐのは無理。今の現行のほうがありがたい。
- ・高校生までスクールバス対応になれば良いが、高校生の位置づけがどのようになるのか。4時半くらいのバスは小学生、6時は中学生から一般が利用。このような人の利用をA案以外は奪ってしまう。現状でも小学生と中学生の行き先が違う。現行とおりがありがたい。

3. まとめ

- ・A案はタクシー補助券の考え方を整理する必要がある。
- ・B案は東濃鉄道の集客吸収となるため困難。
- ・C案は対応可能。北部地域の路線型がどこまで運行するのか検討が必要。C案とD案の折衷案があるかもしれない。
- ・利用者需要等の数値を明らかにする必要がある。
- ・利用者の負担をどこまでとするのか検討する必要がある。